



# BGP ファブリック、リリース ス 12.1.3

# 目次

新機能と更新情報.....	1
eBGP-ベース アンダーレイを使用した VXLAN EVPN ファブリックの作成.....	2
eBGP アンダーレイを使用した VXLAN ファブリックのガイドライン.....	2
一般的なパラメータ.....	3
EVPN.....	5
vPC.....	10
プロトコル.....	11
高度.....	12
管理性.....	15
ブートストラップ.....	15
構成 バックアップ.....	18
Flow Monitor.....	19
スイッチの追加.....	23
スイッチ ロールの割り当て.....	24
vPC セットアップの作成.....	25
ファブリック アンダーレイ eBGP ポリシーの展開.....	26
ファブリック オーバーレイ eBGP ポリシーの展開.....	27
スパイン スイッチ オーバーレイ ポリシーの展開.....	27
リーフ スイッチ オーバーレイ ポリシーの展開.....	27
スーパー スパイン スイッチを既存の VXLAN BGP EVPN ファブリックへ追加する.....	29
著作権.....	32

# 新機能と更新情報

次の表は、この最新リリースまでの主な変更点の概要を示したものです。ただし、今リリースまでの変更点または、新機能の一部は表に記載されていません。

リリースバージョン	特長	説明
NDFC リリース 12.1.3	再編成されたコンテンツ	このドキュメント内のコンテンツは元来 『Cisco NDFC-Fabric Controller 構成ガイド』 または 『Cisco NDFC-SAN Controller 構成ガイド』 で提供されました。 リリース 12.1.3 以降、このコンテンツは現在、このドキュメントでのみ提供されており、これらのドキュメントでは提供されなくなっています。

# eBGP-ベース アンダーレイを使用した VXLAN EVPN ファブリックの作成

## eBGP アンダーレイを使用した VXLAN ファブリックのガイドライン

- ブラウンフィールド移行は、eBGP ファブリックではサポートされていません。
- リーフスイッチの AS 番号は、作成され構成が展開された後に変更することはできません。**leaf\_bgp\_asn** ポリシーを削除し、**[再計算および展開 (Recalculate & Deploy)]** を実行し、この AS に関連する BGP 構成を削除する必要があります。次に、新しい AS 番号を使用して、**leaf\_bgp\_asn** ポリシーを追加します。
- Multi-AS モードと Same-Tier-AS モードを切り替えるには、モードを変更する前に、手動で追加されたすべての BGP ポリシー（リーフスイッチの **Leaf\_bgp\_asn** および EBGP オーバーレイ ポリシーを含む）を削除し、**再計算と展開操作**を実行します。
- デバイスに ebgp オーバーレイ ポリシーが存在する場合、リーフスイッチの **leaf\_bgp\_asn** ポリシーを変更または削除することはできません。最初に eBGP オーバーレイ ポリシーを削除してから、**leaf\_bgp\_asn** ポリシーを削除する必要があります。
- VXLAN BGP ファブリックでサポートされている役割は、リーフ、スパイン、スーパー スパイン、ボーダー スーパー スパインです。
- アンダーレイが IPv6 の場合、ファブリック内リンクは IPv6 リンク ローカル アドレスのみをサポートします。
- ボーダー デバイスでは、VRF-Lite は手動モードでサポートされます。VXLAN マルチサイトは、VXLAN eBGP ファブリックではサポートされていません。
- TRM (テナント ルーテッド マルチキャスト) は、IPv4 アンダーレイを使用した eBGP ファブリックでサポートされます。
- IPv6 アンダーレイを使用する VXLAN は、次の機能をサポートしていません。
  - マルチキャストアンダーレイ
  - TRM
  - 双方向フォワーディング検出 (BFD)
  - MACSec
  - Flexible Netflow
  - BGP 認証

IPv4 または IPv6 eBGP アンダーレイを使用して VXLAN EVPN ファブリックを作成するには、次の手順を実行します。

1. **[LAN] ]>[ファブリック (Fabrics)]** に移動します。
2. **[アクション (Actions)]** ドロップダウンリストから、**[ファブリックの作成 (Create Fabric)]** を選択します。

3. **[ファブリック名 (Fabric Name)]** フィールドにファブリックの一意の名前を入力し、**[ファブリックの選択 (Choose Fabric)]** をクリックします。

使用可能なすべてのファブリック テンプレートのリストが表示されます。

4. ファブリック テンプレートの使用可能なリストから、**BGP ファブリック** テンプレートを選択し、**[選択 (Select)]** をクリックします。

スタンドアロン ファブリックを作成するためのファブリック設定が表示されます。ほとんどのフィールドは、

ファブリック用に事前に入力されています。

5. 必要に応じて、必要なフィールド値を入力するか、事前に入力されたフィールドを編集します。

画面のタブとそのフィールドについては、次のセクションで説明されています。

- [一般的なパラメータ](#)
- [EVPN](#)
- [vPC](#)
- [Protocols](#)
- [詳細設定](#)
- [管理性 \(Manageability\)](#)
- [ブートストラップ](#)
- [コンフィギュレーションのバックアップ](#)
- [Flow Monitor](#)

6. 必要な構成が完了したら **[保存 (Save)]** をクリックします。

- **[ファブリック (Fabric)]** をクリックして、スライドイン ペインに概要を表示します。
- **[起動 (Launch)]** アイコンをクリックして、**[ファブリックの概要 (Fabric Overview)]** ページを表示します。

## 一般的なパラメータ

デフォルトでは、**[全般パラメータ (General Parameters)]** タブが表示されます。次のテーブルにこのタブのフィールドが説明されています。

表1. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックの一般パラメータ

フィールド	説明
スパインの BGP ASN	ファブリックのスパイン スイッチの自律システム番号 (ASN) を入力します。
スーパースパインの BGP ASN	ファブリックにスーパー スパインまたはボーダー スーパー スパイン スイッチを含む場合、スーパー スパインおよびボーダー スーパー スパインに使用する ASN を入力します。

BGP AS モード	<p>[Multi-AS] または [Same-Tier-AS] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[マルチ AS (Multi-AS)]</b> ファブリック：リーフ/ボーダークラスごとに固有の AS 番号。</li> <li>• <b>Same-Tier-AS</b> ファブリックでは、すべてのリーフノードが 1 つの一意の AS を共有し、すべてのボーダーが別の一意の AS を共有します。</li> <li>• <b>マルチ AS と 同層 AS</b> の両方で、ファブリック内のすべてのスパインスイッチは 1 つの一意の AS 番号を共有します。ファブリックは、スパインスイッチの ASN によって識別されます。</li> </ul>
フィールド	説明
リーフで同じ ASN を許可	マルチ AS モードを構成している場合でも、すべてのリーフノードで同じ ASN を使用します。
IPv6 アンダーレイを使用した IPv6 ルーテッドファブリックまたは VXLAN の有効化	<p>IPv6 ルーテッドファブリックまたは IPv6 アンダーレイを有効化このチェックボックスをオフにすると、システムは IPv4 ルーテッドファブリックまたは IPv4 アンダーレイを構成します。</p> <p>IPv6 アンダーレイを設定するには、[EVPN] タブで VXLAN オーバーレイパラメータも設定する必要があります。</p>
アンダーレイ サブネット IP マスク	ファブリック インターフェイスの IP アドレスのサブネットマスクを指定します。
アンダーレイ IP アドレスの手動割り当て	ダイナミックアンダーレイ IP アドレス割り当てを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
アンダーレイ ルーティング ループバック IP 範囲	プロトコルピアリングのループバック IPv4 アドレスを指定します。
アンダーレイ サブネット IP 範囲	インターフェイス間のアンダーレイ P2P ルーティングトラフィックの IPv4 アドレスを指定します。
アンダーレイ ルーティング ループバック IPv6 範囲	プロトコルピアリングのループバック IPv6 アドレスを指定します。
ルートマップ タグの無効化	サブネットの再配布を無効にします。
ルートマップ タグ	サブネットを再配布するためのルートタグを構成します。デフォルトでは、有効な場合、タグ値 12345 が構成されます。
サブインターフェイス Dot1q 範囲	レイヤ 3 サブインターフェイスを使用する場合のサブインターフェイスの範囲を指定します。
パフォーマンス モニタリング を有効化	<p>オンにすると、パフォーマンス モニタリングが有効になります。</p> <p>パフォーマンス モニタリングは、NSリーフのスイッチでサポートされます。</p>

# EVPN

表2. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックの EVPN 構成

フィールド	説明
EVPN VXLAN オーバーレイの有効化	<p data-bbox="580 163 1460 232">ファブリックの VXLAN オーバーレイ プロビジョニングを有効にします。08-04-2023 11:33</p> <p data-bbox="580 275 1460 600">このオプションを選択すると、ルーテッド ファブリックを VXLAN 対応のファブリックに変換できます。ファブリックが VXLAN 対応の場合、オーバーレイ ネットワークまたは VRF インスタンスを作成して展開できます。ネットワークまたは VRF を作成して展開する手順は、<a href="#">データセンター VXLAN EVPN</a> の場合と同じです。詳細については、『<a href="#">データ センター VXLAN EVPN</a>』の「スタンドアロン ファブリックのネットワークの作成」および「VRF の作成」の項を参照してください。</p> <p data-bbox="580 642 1460 880">ルーテッド ファブリック : ルーテッド ファブリック (VXLAN カプセル化のない IP ファブリック) を作成するには、<b>[EVPN VXLAN オーバーレイを有効にする (Enable EVPN VXLAN Overlay)]</b> チェック ボックスをオフにする必要があります。ルーテッド ファブリックでは、ネットワークを作成して展開できます。</p> <p data-bbox="580 922 1460 1037">詳細については、『<a href="#">BGP ベース ルーテッド ファブリックの管理</a>』の「ルーテッド ファブリックのネットワーク概要」のセクションを参照してください。</p> <p data-bbox="580 1079 1460 1317">eBGP ルーテッドまたは eBGP VXLAN ファブリックを作成する場合、ファブリックは eBGP をコントロールプレーンとして使用して、ファブリック内接続を構築します。スパイン スイッチとリーフ スイッチ間のリンクは、上側で eBGP ピアリングが構築されたポイントツーポイント (P2P) 番号付き IP アドレスで自動構成されます。</p> <p data-bbox="580 1359 1460 1597">ファブリック内にネットワークまたは VRF が作成されている場合、<b>[EVPN VXLAN オーバーレイを有効にする (Enable EVPN VXLAN Overlay)]</b> チェック ボックスを選択して、VXLAN EVPN モードとルーテッドファブリック モードを切り替えることはできません。ファブリック設定を変更するには、これらのネットワークまたは VRF を削除する必要があります。</p> <p data-bbox="580 1639 1460 1912"><b>Routed_Network_Universal</b> テンプレートは、ルーテッド ファブリックにのみ適用されることに注意してください。ルーテッド ファブリックを VXLAN EVPN ファブリックに変換する場合は、ネットワーク テンプレートとネットワーク拡張テンプレートを、VXLAN EVPN に定義されているものに設定します：<b>Default_Network_Universal</b> と <b>Default_Network_Universal</b> です。VXLAN EVPN ファブリック用にカスタマイズされたテンプレ</p>



レートがある場合は、それを使用することも選択できます。



ネットワークを作成した後は、

このファブリック設定を変更できません。変更する場合は、すべてのネットワークを削除してから、FHRP 設定を変更する必要があります。

**[EVPN]** タブの次のフィールドは、EVPN VXLAN オーバーレイを有効にする場合にのみ適用されます。

**エニーキャストゲートウェイ  
MAC**

リーフ スイッチのエニーキャスト ゲートウェイ MAC アドレスを指定します。

フィールド	説明
VXLAN OAM の有効化	<p>既存のスイッチの VXLAN の運用、管理、およびメンテナンス (OAM) 機能を有効にします。この設定はデフォルトでイネーブルになっています。チェックボックスをオフにすると、VXLAN OAM 機能が無効になります。</p> <p>ファブリック内の特定のスイッチで VXLAN OAM を有効にし、他のスイッチで無効にする場合は、自由形式構成を使用して、ファブリック設定で OAM を有効にし、OAM を無効にすることができます。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 10px;">  <p>Cisco NDFC の VXLAN OAM 機能が</p> <p>単一のファブリックまたはサイトのみでサポートされます。VXLAN OAM は、マルチサイトファブリックではサポートされていません。</p> </div>
テナント DHCP の有効化	テナント DHCP サポートを有効にします。
vPC advertise-pip	vPC 対応リーフ スイッチまたはボーダー リーフ スイッチでアドバタイズ PIP (プライマリ IP アドレス) 機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
レプリケーションモード (Replication Mode)	ファブリックで使用されているレプリケーションモードを指定します。入力レプリケーションまたはマルチキャスト。
マルチキャスト グループ サブネット	マルチキャスト通信に使用される IP アドレス プレフィックスを指定します。オーバーレイ ネットワークごとに、このグループから一意の IP アドレスが割り当てられます。
テナント ルーテッドマルチキャストの有効化	ファブリック オーバーレイ マルチキャストプロトコルとしてテナントルーテッドマルチキャスト (TRM) を有効にするには、チェックボックスをオンにします。
TRM VRF のデフォルト MDT アドレス (Default MDT Address for TRM VRFs)	TRM トラフィックのマルチキャスト アドレスを示します。デフォルトでは、このアドレスは [マルチキャスト グループ サブネット (Multicast Group Subnet)] フィールドで指定された IP プレフィックスから取得されます。いずれかのフィールドをアップデートする場合、[マルチキャスト グループ サブネット (Multicast Group Subnet)] で指定した IP プレフィックスから選択された TRM アドレスであることを確認してください。
ランデブーポイント	ランデブーポイントとして機能するスパインスイッチの数を入力します。


RP モード	<p>レプリケーションでサポートされている 2 つのマルチモード、<b>ASM</b> (エニーソース マルチキャスト [ASM]) または <b>BiDir</b> (双方向 PIM [BIDIR-PIM]) のいずれかを選択します。</p> <p>マルチキャスト モードを有効にすると、そのマルチキャスト モードに関連するフィールドだけが有効になり、他のマルチキャスト モードに関連するフィールドは無効になります。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;">  <p>BIDIR-PIM は、Cisco のクラウド スケールでサポートされています。</p> <p>ファミリ プラットフォーム 9300-EX および 9300-FX/FX2、および NX-OS リリース 9.2(1) 以降。</p> </div>
アンダーレイ RP ループバック ID	ランデブー ポイント (RP) に使用するループバック ID を指定します。デフォルトは 254 です。
フィールド	説明
RP モードとして <b>[双方向 (bidir)]</b> を選択すると、以下のフィールドが有効になります。RP カウントに応じて、2 つまたは 4 つのファントム RP ループバック ID フィールドが有効になります。	
アンダーレイ プライマリ RP ループバック ID	ファントム RP に使用するプライマリ ループバック ID を指定します。
アンダーレイ バックアップ RP ループバック ID	フォールバック Bidir-PIM ファントム RP に使用するセカンダリ (またはバックアップ) ループバック ID を指定します。
次のループバック ID オプションは、RP カウントが 4 の場合にのみ適用されます ( <b>[bidir]</b> が選択されている場合)。	
アンダーレイ 2 番目のバックアップ RP ループバック ID	ファントム RP に使用する 2 番目のバックアップループバック ID を指定します。
アンダーレイのサードバックアップ RP ループバック ID	ファントム RP に使用する 3 番目のバックアップループバック ID を指定します。
VRF テンプレート	VRFを作成するためのVRFテンプレートと、他のファブリックへのVRF拡張を有効にするためのVRF拡張テンプレートを指定します。
VRF 拡張テンプレート	
Network Template	ネットワークを作成するためのネットワーク テンプレートと、他のファブリックにネットワークを拡張するためのネットワーク拡張テンプレートを指定します。
ネットワーク拡張テンプレート	
アンダーレイ VTEP ループバック IP 範囲	VTEP のループバック IP アドレス範囲を指定します。
アンダーレイ RP ループバック IP 範囲	エニーキャストまたはファントム RP の IP アドレス範囲を指定します。
レイヤ2 VXLAN VNI範囲	ファブリックの VXLAN VNI ID を指定します。
レイヤ3 VXLAN VNI範囲	

ネットワーク VLAN 範囲	レイヤ 3 VRF およびオーバーレイ ネットワークの VLAN 範囲。
VRF VLAN 範囲	
VRF Lite の展開	ファブリック間接続を拡張するための VRF Lite 方式を指定します。08-04-2023 11:33手動のみがサポートされています。

## vPC

表3. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックの vPC 構成

フィールド	説明
vPC ピア リンク VLAN	vPC ピア リンク SVI に使用される VLAN です。
vPC ピアリンク VLAN をネイティブ VLAN として構成します。	vPC ピア リンク VLAN をネイティブ VLAN として有効にします。
フィールド	説明
vPC ピア キープ アライブ オプション	ドロップダウン リストから、 <b>【管理 (management)】</b> または <b>【ループバック (loopback)】</b> を選択します。管理ポートおよび管理 VRF に割り当てられた IP アドレスを使用するには、 <b>【管理 (management)】</b> を選択します。ループバック インターフェイス (および非管理 VRF) に割り当てられた IP アドレスを使用するには、 <b>ループバック</b> を選択します。IPv6 アドレスを使用する場合は、ループバック ID を使用する必要があります。
vPC 自動リカバリ時間	vPC 自動回復タイムアウト時間を秒単位で指定します。
vPC の遅延復元時間	vPC 遅延復元期間を秒単位で指定します。
vPC ピア リンク ポート チャンネル番号	vPC ピア リンクのポートチャンネル ID を指定します。デフォルトでは、このフィールドの値は 500 です。
vPC IPv6 ND 同期	vPC スイッチ間の IPv6 ネイバー探索同期を有効にします。デフォルトでチェックボックスはオンになっています。この機能を無効にするには、チェックボックスをオフにします。
ファブリック全体の vPC ドメイン ID	ファブリック内のすべての vPC ペアで同じ vPC ドメイン ID の使用を有効にします。08-04-2023 11:33 このフィールドを選択すると、 <b>【vPC ドメイン ID (vPC Domain Id)】</b> フィールドが編集可能になります。
vPC ドメイン ID	すべての vPC ペアで使用される vPC ドメイン ID を指定します。それ以外の場合は、vPC ペアごとに一意の vPC ドメイン ID が使用されます (1 ずつ増加)。

ファブリック vPC ピアリングの QoS の有効化	<p>スパインの QoS を有効にして、vPC ファブリック ピアリング通信の配信を保証します。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <p>ファブリック設定の vPC ファブリック ピアリングとスパインの QoS オプションは相互に排他的です。</p> </div>
QoS ポリシー名	すべてのスパインで同じにする必要がある QoS ポリシー名を指定します。

## プロトコル

表4. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックのプロトコル構成

フィールド	説明
ルーティング ループバック Id	ループバック インターフェイス ID は、デフォルトで 0 として設定されます。BGP ルータ ID として使用されます。
VTEP ループバック ID	ループバック インターフェイス ID は、1 として入力し、VTEP ピアリング目的に使用されます。
BGP の最大パス	ECMP のスイッチ上の同じプレフィックスにインストールされる BGP ルートの最大数を指定します。
BGP 認証の有効化	BGP 認証を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このフィールドを有効にすると、 <b>[BGP 認証キー暗号化タイプ (BGP Authentication Key Encryption Type) ]</b> および <b>[BGP 認証キー (BGP Authentication Key) ]</b> フィールドが有効になります。
BGP 認証キー暗号化タイプ	3DES 暗号化タイプの場合は 3、Cisco 暗号化タイプの場合は 7 を選択します。
フィールド	説明
BGP 認証キー	<p>暗号化タイプに基づいて暗号化キーを入力します。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <p>プレーンテキストパスワードはサポートされていません。</p> </div> <p>スイッチにログオンし、暗号化キーを取得します。<b>[BGP 認証キー (BGP Authentication Key) ]</b> フィールドにキーを入力します。</p> <p>詳細については、<a href="#">IPFM およびクラシック IPFM</a> の「暗号化された BFD 認証キーの取得」の項を参照してください。</p>
PIM Hello 認証の有効化	PIM hello 認証を有効にします。
PIM Hello 認証キー	PIM hello 認証キーを指定します

BFDの有効化	<p><b>[BFDの有効化 (Enable BFD) ]</b> チェックボックスは、ファブリック内のすべてのスイッチで機能 <b>bfd</b> を有効にする場合にオンにします。この機能は、IPv4 アンダーレイでのみ有効で、範囲はファブリック内にあります。</p> <p>NDFC は、ファブリック内の BFD をサポートします。ファブリック設定では、BFD 機能はデフォルトで無効になっています。有効にすると、デフォルト設定のアンダーレイ プロトコルに対して BFD が有効になります。カスタム BFD 構成は、スイッチごとの自由形式またはインターフェイスごとの自由形式ポリシーを使用して展開する構成が必要です。</p> <p>次の構成は、BFD を有効にした後にプッシュされます。'feature bfd'</p> <p>BFD が有効になっている NDFC では、次の構成がすべての P2P ファブリック インターフェイスにプッシュされます。</p> <pre>no ip redirects no ipv6 redirects</pre> <p>BFD 機能の互換性については、それぞれのプラットフォームのマニュアルを参照してください。サポートされているソフトウェア バージョンについては、『Cisco Nexus Dashboard Fabric Controller 互換性マトリクス』を参照してください。</p>
BGPに BFD を有効化	BGP ネイバーの BFD を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、デフォルトで無効です。
BFD 認証の有効化	BFD 認証を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このフィールドを有効にすると、 <b>[BFD 認証キー ID (BFD Authentication Key ID) ]</b> フィールドと <b>[BFD 認証キー (BFD Authentication Key) ]</b> フィールドが有効になります。
BFD 認証キー ID	インターフェイス認証の BFD 認証キー ID を指定します。
フィールド	説明
BFD 認証キー	<p>BFD 認証キーを指定します。</p> <p>BFD 認証パラメータを取得する方法については、「<a href="#">IPFM および Classic IPFM</a>」の「<a href="#">暗号化された BFD 認証キーの取得</a>」セクションを参照してください。</p>

## 高度

表5. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックの詳細構成

フィールド	説明
ファブリック内インターフェイス MTU	ファブリック内インターフェイスに MTU を指定します。この値は偶数にする必要があります。
レイヤ 2 ホスト インターフェイス MTU	レイヤ 2 ホスト インターフェイスに MTU を指定します。この値は偶数にする必要があります。
電源モード	適切な電源モードを選択します。
CoPP プロファイル	ドロップダウン リストから、ファブリックの適切なコントロールプレーン ポリシング (CoPP) プロファイル ポリシーを選択します。デフォルトでは、 <b>strict</b> が選択されています。
VTEP ホールドダウン タイマー	NVE 送信元インターフェイス ホールドダウン時間を指定します。
VRF Lite サブネット IP 範囲	これらのフィールドには、DCI サブネットの詳細が入力されません。必要に応じて、次のフィールドを更新します。
VRF Lite サブネット マスク	
ブートストラップされたスイッチの CDP の有効化	ブートストラップを使用して検出されたスイッチの CDP を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
NX-API を有効化	HTTPS で NX-API を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオンになっています。
HTTP での NX-API の有効化	<p>HTTP での NX-API の有効化を指定します。HTTP を使用するには、<b>[HTTP での NX-API の有効化 (Enable NX-API on HTTP) ]</b> チェックボックスと <b>[NX-API の有効化 (Enable NX-API) ]</b> チェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオンになっています。このチェックボックスをオフにすると、エンドポイント ロケータ (EPL)、レイヤ 4~レイヤ 7 サービス (L4~L7 サービス)、VXLAN OAM など、NX-API を使用し、Cisco がサポートするアプリケーションは、HTTP ではなく HTTPS を使用するようになります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>[NX-API の有効化 (Enable NX-API) ]</b> と <b>[有効化 (Enable) ]</b> の両方をオンにする場合</p> <p> <b>NX-API on HTTP</b> チェックボックス、アプリケーションは HTTP を使用します。</p> </div>
Strict Config Compliance の有効化	<p>このチェックボックスをオンにして、厳密な構成コンプライアンス機能を有効にします。01-04-2023 12:36</p> <p>詳細については、『構成コンプライアンス』の「Strict Configuration Compliance」のセクションを参照してください。</p>
フィールド	説明
AAA IP 認証の有効化	AAA IP 認証 (AAA サーバで IP 認証が有効になっていることを確認) を有効にします。
トラップ ホストとしての NDFC の有効化	NDFC をトラップ ホストとして有効にするには、このチェックボックスをオンにします。





その他の N9K プラットフォーム キューイング ポリシー	ドロップダウンリストからキューイング ポリシーを選択し、ファブリック内にある、上記 2 つのオプションで説明したスイッチ以外の他のすべてのスイッチに適用します。有効な値は <b>[queuing_policy_default_other]</b> です。
リーフ フリーフォーム構成	リーフ、ボーダー、および境界ゲートウェイの役割を持つスイッチに追加する必要がある CLI です。
スパイン自由形式構成	スパイン、ボーダー スパイン、ボーダー ゲートウェイ スパイン、およびスーパー スパインのロールを持つスイッチに追加する CLI です。
ファブリック内リンクの追加構成	ファブリック内リンクに追加する CLI を追加します。


## 管理性

表6. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックの管理パラメータ

フィールド	説明
DNS サーバの IP	DNS サーバの IP アドレス (v4/v6) のカンマ区切りリストを指定します。
DNS サーバ VRF	すべての DNS サーバに 1 つの VRF を指定するか、DNS サーバごとに 1 つの VRF を指定します。
NTP サーバ IP	NTP サーバの IP アドレス (v4/v6) のカンマ区切りリストを指定します。
NTP サーバ VRF	すべての NTP サーバに 1 つの VRF を指定するか、NTP サーバごとに 1 つの VRF を指定します。
Syslog サーバ IP	syslog サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト (v4/v6) を指定します (使用する場合)。
Syslog サーバの重要度	syslog サーバごとに 1 つの syslog 重大度値のカンマ区切りリストを指定します。最小値は 0 で、最大値は 7 です。高いシビラティ (重大度) を指定するには、大きい数値を入力します。
Syslog サーバ VRF	すべての syslog サーバに 1 つの VRF を指定するか、syslog サーバごとに 1 つの VRF を指定します。
AAA フリーフォーム構成	AAA 自由形式の構成を指定します。  ファブリック設定で AAA 構成が指定されている場合は、 <b>switch_freeform</b> PTI で、ソースが <b>UNDERLAY_AAA</b> 、説明が <b>AAA Configurations</b> であるものが作成されます。

## ブートストラップ


表7. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックのブートストラップパラメータ

フィールド	説明
ブートストラップの有効化	<p>[ブートストラップを有効にする (Enable Bootstrap) ] チェックボックスをオンにして、ブートストラップ機能を有効にします。</p> <p>ブートストラップをイネーブルにした後、次のいずれかの方法を使用して、DHCP サーバで IP アドレスの自動割り当てをイネーブルにできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部 DHCP サーバ : [スイッチ管理デフォルト ゲートウェイ (Switch Mgmt Default Gateway) ] および [スイッチ管理 IP サブネット プレフィックス (Switch Mgmt IP Subnet Prefix) ] フィールドに外部 DHCP サーバに関する情報を入力します。</li> <li>ローカル DHCP サーバ : [ローカル DHCP サーバ (Local DHCP Server) ] チェックボックスをオンにして、残りの必須フィールドに詳細を入力します。</li> </ul>
ローカル DHCP サーバの有効化	<p>[ローカル DHCP サーバを有効にする (Enable Local DHCP Server) ] チェックボックスをオンにして、NDFC で DHCP サービスを有効にし、自動 IP アドレス割り当てを開始します。このチェックボックスをオンにすると、[DHCP スコープ開始アドレス (DHCP Scope Start Address) ] および [DHCP スコープ終了アドレス (DHCP Scope End Address) ] フィールドが編集可能になります。</p> <p>このチェックボックスをオンにしない場合、NDFC は自動 IP アドレス割り当てにリモートまたは外部の DHCP サーバを使用します。</p>
DHCP バージョン	<p>このドロップダウンリストから [DHCPv4] または [DHCPv6] を選択します。[DHCPv4] を選択すると、[スイッチ管理 IPv6 サブネット プレフィックス (Switch Mgmt IPv6 Subnet Prefix) ] フィールドは無効になります。DHCPv6 を選択すると、[スイッチ管理 IP サブネット プレフィックス (Switch Mgmt IP Subnet Prefix) ] は無効になります。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>Cisco IPv6 POAP は、Cisco Nexus 7000 シリーズスイッチではサポートされていません。Cisco Nexus 9000 および 3000 シリーズスイッチは IPv6 を</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <p>サポートします (スイッチが IP 隣接 (eth1 またはアウトオブバンドサブネットが /64 である必要があり) または Layer3 隣接が一部の IPv6/サブネットに存在する場合のみ) 。/64 以外のサブネットプレフィックスはサポートされません。</p> </div>
DHCP スコープ開始アドレス	IP アドレス範囲の最初と最後の IP アドレスを指定します。このス

DHCP 範囲終了アドレス	コープからの IP は、POAP ブート ストラップ プロセス中にスイッチに割り当てられます。
スイッチ管理デフォルト ゲートウェイ	DHCP 範囲のデフォルト ゲートウェイを指定します。
スイッチ管理 IP サブネット プレフィックス	DHCP 範囲のプレフィックス長を指定します。
DHCP スコープと管理デフォルトゲートウェイの IP アドレスの指定	管理デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定する場合 10.0.1.1 およびサブネットマスク 24 の場合、DHCP スコープが指定されたサブネット内 (10.0.1.2 ~ 10.0.1.254) 内にあることを確認します。
スイッチ 管理 IPv6 サブネットプレフィックス	スイッチの Mgmt0 インターフェイスの IPv6 プレフィックスを指定します。プレフィックスは 112 ~ 126 の範囲で指定する必要があります。このフィールドは DHCP の IPv6 が有効な場合に編集できます。
フィールド	説明
AAA 構成の有効化	デバイスの起動中に AAA 構成を <b>[管理性 (Manageability) ]</b> タブから含む場合は、チェックボックスをオンにします。
ブートストラップ フリーフォーム 構成	<p>必要に応じて、追加のコマンドを入力します。たとえば、AAA またはリモート認証関連の構成を使用している場合は、このフィールドにこれらの構成を追加してインテントを保存する必要があります。デバイスが起動すると、<b>[ブートストラップ自由形式の構成 (Boostrap Freeform Config) ]</b> フィールドで定義されたインテントが含まれます。</p> <p>running-configuration をコピーして <b>[自由形式の構成 (freeform config) ]</b> フィールドに正しいインデントでペーストします。NX-OS スイッチの実行構成に表示されているように正しく行ってください。フリーフォームの設定は、実行設定とマッチしている必要があります。</p> <p>詳細については、スイッチでのフリーフォーム構成エラーの解決を参照してください。「<a href="#">ファブリック スイッチでのフリーフォーム構成 の有効化</a>」に記されています。</p>
DHCPv4/DHCPv6 マルチサブネット スコープ	<p>1 行に 1 つのサブネット範囲を入力して、フィールドを指定します。<b>[ローカル DHCP サーバーの有効化 (Enable Local DHCP Server) ]</b> チェックボックスをオンにすると、このフィールドは編集可能になります。スコープの形式は次の順で定義する必要があります。</p> <p><b>[DHCP スコープ開始アドレス、DHCP スコープ終了アドレス、スイッチ管理デフォルト ゲートウェイ、スイッチ管理サブネット プレフィックス (DHCP Scope Start Address, DHCP Scope End Address, Switch Management Default Gateway, Switch Management Subnet Prefix) ]</b></p> <p>例 : 10.6.0.2、10.6.0.9、16.0.0.1、24</p>

# 構成 バックアップ

表 8. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックの構成バックアップパラメータ

フィールド	説明
毎時ファブリック バックアップ	<p><b>[毎時ファブリック バックアップ (Hourly Fabric Backup) ]</b> チェックボックスをオンにして、ファブリック構成とインテントの 1 時間ごとのバックアップを有効にします。</p> <p>新しいファブリック構成とインテントの 1 時間ごとのバックアップを有効にできます。前の時間に設定のプッシュがあった場合、NDFC はバックアップを取ります。</p> <p>インテントとは、NDFC に保存されているものの、まだスイッチにプロビジョニングされていない構成を指します。</p>
スケジュール済みバックアップ	<p>毎日のバックアップを有効にします。このバックアップは、構成のコンプライアンスによって追跡されないファブリック デバイスの実行構成の変更を追跡します。</p>
フィールド	説明
予定時刻	<p>スケジュールされたバックアップ時間を 24 時間形式で指定します。[スケジュール済みファブリック バックアップ (Scheduled Fabric Backup) ] チェックボックスをオンにすると、このフィールドが有効になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>両方のチェックボックスをオンにして、両方のバックアッププロセスを有効にします。[保存 (Save) ]をクリックすると、バックアッププロセスが開始されます。 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>毎時およびスケジュールされたバックアッププロセス</p> <p> は、<sup>次</sup>コンプライアンスアクティビティ中の<sup>の</sup>定期的な構成発生し、 最大 1 時間の遅延する可能性があります。</p> </div> </li> <li>即時バックアップをトリガーするには、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>[LAN]&gt;[トポロジ (Topology) ]を選択します。</li> <li>特定のファブリック ボックス内をクリックします。[ファブリック トポロジ (fabric topology)] 画面が表示されます。</li> <li>画面左側の [アクション (Actions) ] ペインで、[ファブリックの再同期 (Re-Sync Fabric) ] をクリックします。</li> </ol> </li> </ol>

	<p>ファブリック トポロジ ウィンドウでファブリック バックアップを開始することもできます。[アクション (Actions) ] ペインで [今すぐバックアップ (Backup Now) ] をクリックします。</p> <p>3. 関連情報を入力して更新したら、[保存 (Save) ] をクリックします。</p>
--	--

## Flow Monitor

表9. eBGP を使用した VXLAN EVPN ファブリックの構成パラメータ

フィールド	説明
NetFlow を有効にする	<p>[Netflow を有効にする (Enable Netflow) ] チェックボックスをオンにして、このファブリックの VTEP で Netflow を有効にします。デフォルトでは、Netflow は無効になっています。</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p> ファブリックで NetFlow が有効になっている場合は、次の操作を実行できます。</p> <p>偽の NetFlowPII を使用して、特定のスイッチで NetFlow を使用しないことを選択します。</p> </div> <p>netflow がファブリック レベルで有効になっていない場合、インターフェイス、ネットワーク、または VRF レベルで netflow を有効にすると、エラーメッセージが生成されます。</p> <p>Cisco NDFC の Netflow サポートについては、<a href="#">[Netflow サポート]</a></p>

	ト ( <a href="#">Netflow Support</a> ) ] を参照してください。
フィールド	説明
NetFlowエクスポート	<p>NetFlow データを受信するための NetFlow エクスポートを追加するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>[NetFlow エクスポート (Netflow Exporter) ]</b> 領域で、<b>[アクション (Actions) ]&gt;[追加 (Add) ]</b> の順に選択します。  <b>[項目の追加 (Add Item) ]</b> ページが表示されます。</li> <li>2. <b>[エクスポート名 (Exporter Name) ]</b> フィールドに、エクスポートの名前を入力します。</li> <li>3. <b>[IP]</b> フィールドにエクスポートの IP アドレスを入力します。</li> <li>4. <b>[VRF]</b> フィールドで、エクスポートがルーティングされる VRF を指定します。</li> <li>5. <b>[送信元インターフェイス (Source Interface) ]</b> フィールドで、送信元インターフェイス名を入力します。</li> <li>6. <b>[UDP ポート (UDP Port) ]</b> フィールドで、Netflow データがエクスポートされる UDP ポートを指定します。</li> <li>7. <b>[保存 (Save) ]</b> をクリックしてエクスポートを構成します。</li> </ol>

## NetFlow レコード

NetFlow レコードを追加するには：

1. **[Netflow レコード (Netflow Record) ]** 領域で、**[アクション (Actions) ]>[追加 (Add) ]** を選択し、1 つ以上の Netflow レコードを追加します。
2. **[レコード名 (Record Name) ]** フィールドに、レコードの名前を入力します。
3. **[レコードテンプレート (Record Template) ]** フィールドで、必要なテンプレートを選択します。

リリース 12.0.2 では、次の 2 つのレコード テンプレートを使用できます。カスタム Netflow レコード テンプレートを作成できます。テンプレート ライブラリに保存されているカスタム レコード テンプレートは、ここで使用できます。

- **netflow\_ipv4\_record** - IPv4 レコード テンプレートを使用します。
- **netflow\_l2\_record** - レイヤ 2 レコード テンプレートを使用します。

4. レコードが Layer2 Netflow の場合は、**[レイヤ 2 レコード (Is Layer2 Record) ]** チェック ボックスをオンにします。
5. **[保存 (Save) ]** をクリックしてレポートを構成します。

フィールド	説明
Netflow Monitor	<p>NetFlow モニタを追加するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>[NetFlow モニター (Netflow Monitor) ]</b> 領域で、<b>[アクション (Actions) ]&gt;[追加 (Add) ]</b> の順に選択します。</li> <li>2. <b>[モニタ名 (Monitor Name) ]</b> フィールドで、モニタの名前を入力します。</li> <li>3. <b>[レコード名 (Record Name) ]</b> フィールドに、レコードの名前を入力します。</li> <li>4. <b>[エクスポート 1 の名前 (Exporter1 Name) ]</b> フィールドで、ネットフロー モニタのエクスポートの名前を入力します。</li> <li>5. (オプション) <b>[エクスポート 2 の名前 (Exporter1 Name) ]</b> フィールドで、ネットフロー モニタのセカンダリエクスポートの名前を入力します。</li> </ol> <p>各 Netflow モニタで参照されるレコード名とエクスポートは、<b>[フロー モニタ (Flow Monitor) ] タブ</b> で <b>[Netflow レコード (Netflow Record) ]</b> と <b>[Netflow エクスポート (Netflow Exporter) ]</b> で定義する必要があります。。<b>[保存 (Save) ]</b> をクリックして、フロー モニタを構成します。</p>



# スイッチの追加

スイッチは、任意の時点で単一のファブリックに追加できます。ファブリックにスイッチを追加し、既存または新しいスイッチを検出するには、「[LAN 動作モードの スイッチの追加](#)」の「ファブリックへのスイッチの追加」の項を参照してください。

# スイッチ ロールの割り当て

Nexus ダッシュボード ファブリック コントローラのスイッチにロールを割り当てるには、『[LAN 動作モードにスイッチの追加](#)』の「スイッチ ロールの割り当て」セクションを参照してください。

# vPC セットアップの作成

(オプション) ファブリックのスイッチのペアに vPC セットアップを作成します。スイッチの役割が同じで、相互に接続されていることを確認します。

手順については、『[vPC ファブリック ピアリングの構成](#)』の「vPC ファブリック ピアリング」セクションを参照してください。

# ファブリック アンダーレイ eBGP ポリシーの展開

ファブリック アンダーレイ eBGP ポリシーを展開するには、各リーフ スイッチに **leaf\_bgp\_asn** ポリシーを手動で追加して、スイッチで使用される BGP AS 番号を指定する必要があります。後ほど**再計算と展開**操作を実施すると、リーフ スイッチとスパイン スイッチ間の物理インターフェイス上に eBGP ピアリングが生成され、アンダーレイの到達可能性情報が交換されます。**Same-Tier-AS** モードを使用している場合、すべてのリーフが同じ BGP ASN を共有するため、**leaf\_bgp\_asn** ポリシーを一度にすべてのリーフに展開できます。

Multi-AS ファブリックでは、各リーフノードとファブリックに **leaf\_bgp\_asn** ポリシーを追加します。vPC スイッチ ペアでは、同じ AS 番号を共有します。

必要なスイッチにポリシーを追加するには、『[LAN 動作モード設定の ファブリック概要](#)』の「ポリシーの追加」セクションを参照してください。

# ファブリック オーバーレイ eBGP ポリシーの展開

オーバーレイ ピアリングの eBGP オーバーレイ ポリシーは手動で追加する必要があります。NDFC は、内蔵 eBGP リーフおよびスパイン スイッチに手動で追加して EVPN オーバーレイ ピアリングを形成する必要がある eBGP リーフおよびスパイン オーバーレイ ピアリング ポリシー テンプレートを提供します。

## スパイン スイッチ オーバーレイ ポリシーの展開

**ebgp\_overlay\_spine\_all\_neighbor** ポリシーをスーパー スパイン スイッチに追加します。このポリシーは、すべてのスパイン スイッチで同じフィールド値を共有するため、一度にすべてのスパイン スイッチに展開できます。ネットワークにスパイン スイッチとスーパー スパイン スイッチが含まれている場合は、スーパー スパイン スイッチにのみポリシーを展開する必要があります。

1. [LAN]>[ファブリック (Fabrics)] に移動し、ファブリックをダブルクリックします。

[ファブリックの概要 (Fabric Overview)] ウィンドウが表示されます。

2. [ポリシー (Policy)] タブで、[アクション (Actions)]>[ポリシーの追加 (Add Policy)] の順に選択します。

3. **ebgp\_overlay\_spine\_all\_neighbor** を追加するすべてのスパイン スイッチを選択します。ポリシーを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

[ポリシーの作成 (Create Policy)] ウィンドウを表示します。

4. [テンプレートの選択 (Choose Template)] をクリックし、**ebgp\_overlay\_spine\_all\_neighbor** ポリシーを選択します。

5. 必要に応じて、次のフィールドに必要なフィールド値を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールド	説明
リーフ IP リスト	接続されたリーフ スイッチ ルーティング ループバック インターフェイスの IPv6 または IPv4 アドレスを指定します。IPv6 アンダーレイを有効にした場合は、このフィールドに IPv6 アドレスを入力してください。
リーフ BGP ASN	リーフ スイッチの BGP AS 番号。
BGP アップデート送信元インターフェイス	これは、BGP アップデートの送信元インターフェイスです。デフォルトでは、アンダーレイ ルーティング ループバック ( <b>loopback0</b> ) が使用されます。

1. [ファブリックの概要 (Fabric Overview)] ウィンドウの右上で、[アクション (Actions)]>[再計算と展開 (Recalculate and Deploy)] をクリックします。

2. [構成の展開 (Config Deployment)] ウィンドウで構成が完了したら、[閉じる (Close)] をクリックします。

[ポリシーの編集 (Edit Policy)] オプションを使用してポリシーを編集し、[構成のプッシュ (Push Configuration)] をクリックして構成を展開できます。

## リーフ スイッチ オーバーレイ ポリシーの展開

すべてのリーフ スイッチに **ebgp\_overlay\_leaf\_all\_neighbor** ポリシーを追加して、スパイン スイッチへの eBGP オーバーレイ ピアリングを確立します。このポリシーは、すべてのリーフ スイッチで同じフィールド値を共有するため、一度にすべてのリーフ スイッチに展開できます。

1. [LAN]>[ファブリック (Fabrics)] に移動し、ファブリックをダブルクリックします。  
[ファブリックの概要 (Fabric Overview)] ウィンドウが表示されます。
2. [ポリシー (Policy)] タブで、[アクション (Actions)]>[ポリシーの追加 (Add Policy)] の順に選択します。
3. **ebgp\_overlay\_leaf\_all\_neighbor** を追加するすべてのスパイン スイッチを選択します。  
ポリシーを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。  
[ポリシーの作成 (Create Policy)] ウィンドウを表示します。
4. [テンプレートの選択 (Choose Template)] をクリックし、**ebgp\_overlay\_leaf\_all\_neighbor** ポリシーを選択します。
5. 必要に応じて、次のフィールドに必要なフィールド値を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールド	説明
スパイン/スーパースパイン IPv4/IPv6 リスト	BGP ピアリングのスパインまたはスーパー スパイン スイッチのルーティング ループバック インターフェイスの IPv4 または IPv6 アドレスを指定します。IPv6 アンダーレイを有効にした場合は、このフィールドに IPv6 アドレスを入力します。  ファブリックにスーパー スパインまたはボーダー スーパースパインがある場合は、スーパー スパインまたはボーダー スーパースパインの IP アドレスを指定します。
BGP アップデート送信元インターフェイス	これは、BGP アップデートの送信元インターフェイスです。デフォルトでは、アンダーレイ ルーティンググループバック ( <b>loopback0</b> ) が使用されます。

6. [ファブリックの概要 (Fabric Overview)] ウィンドウの右上で、[アクション (Actions)]>[再計算と展開 (Recalculate and Deploy)] をクリックします。
7. [構成の展開 (Config Deployment)] ウィンドウで構成が完了したら、[閉じる (Close)] をクリックします。

[ポリシーの編集 (Edit Policy)] オプションを使用してポリシーを編集し、[構成のプッシュ (Push Configuration)] をクリックして構成を展開できます。

## スーパー スパイン スイッチを既存の VXLAN BGP EVPN ファブリックへ追加する

ファブリックにスパイン スイッチとスーパー スパイン スイッチの両方が含まれている場合は、リーフ デバイスとボーダー デバイスの間にオーバーレイを展開するためにスーパー スパインを使用するようにファブリックを再設定する必要があります。このトピックでは、スーパー スパイン スイッチを、リーフ スイッチとスパイン スイッチがあり、その間にオーバーレイがある既存のファブリックに統合する手順について説明します。

1. 既存の VXLAN BGP EVPN ファブリックに新しく追加されたスーパー スパイン スイッチに **ebgp\_overlay\_spine\_all\_neighbor** ポリシーを追加するには、次の手順を実行します。
  - a. 使用するファブリックの [ファブリックの概要 (Fabric Overview)] ウィンドウに移動し、[ポリシ

ー (Policies) ] タブをクリックします。

b. ebgp\_overlay\_spine\_all\_neighbor ポリシーを追加する  
パー スパイン スイッチを スー  
選択し、[次へ (Next) ] をクリックします。[ポリシーの作

成 (Create Policy) ] ウィンドウを表示します。



- c. [テンプレートの選択 (Choose Template) ] をクリックし、**ebgp\_overlay\_spine\_all\_neighbor** ポリシーを選択します。
  - d. [リーフ IP リスト (Leaf IP List) ] フィールドにリーフ スイッチの IPv4 または IPv6 アドレスを入力します。
  - e. [リーフ BGP ASN (Leaf BGP ASN) ] フィールドにリーフ スイッチの AS 番号を入力し、[保存 (Save) ] をクリックします。
2. 各リーフ ノードで既存の **ebgp\_overlay\_leaf\_all\_neighbor** ポリシーを変更するには：
- a. **ebgp\_overlay\_leaf\_all\_neighbor** テンプレート名に基づいてフィルタリングして、既存のポリシーを検索します。



一度に変更するポリシーは1つだけにしてください。

- b. ポリシーを選択し、[アクション (Action) ] > [ポリシーの編集 (Edit Policy) ] を選択します。
  - c. [スパイン/スーパー スパイン IP リスト (Spine/Super Spine IP List) ] フィールドにスーパー スパインルーティンググループバック インターフェイスの IP アドレスを入力し、[保存 (Save) ] をクリックします。
3. ステップ 2 で追加したリーフとスーパー スパイン スイッチを選択し、[アクション (Actions) ] > [展開 (Deploy) ] の順に選択します。
4. [リンク (Links) ] タブで、[プロトコル ビュー (Protocol View) ] をクリックし、スーパー スパインとリーフ スイッチ間の eBGP ピアリングが確立されていることを確認します。
5. 次のように、リーフとスパイン スイッチ間の既存のオーバーレイを削除します。
- a. スパイン スイッチで、**ebgp\_overlay\_spine\_all\_neighbor** ポリシーを選択し、[アクション (Actions) ] > [ポリシーの削除 (Delete Policy) ] を選択します。
  - b. リーフ スイッチで、**ebgp\_overlay\_leaf\_all\_neighbor** ポリシーを選択し、[アクション (Actions) ] > [ポリシーの編集 (Edit Policy) ] の順に選択します。
  - c. [スパイン/スーパー スパイン IPv4/IPv6 リスト (Spine/Super Spine IPv4/IPv6 List) ] フィールドでスパイン スイッチの IP アドレスを削除し、[保存 (Save) ] をクリックします。
6. 更新された構成をスパイン スイッチとリーフ スイッチに展開するには、[ファブリックの概要 (Fabric Overview) ] ウィンドウの右上にある [アクション (Actions) ] > [再計算と展開 (Recalculate and Deploy) ] の順に選択します。

または

リーフとスパイン スイッチを選択し、[アクション (Actions) ] > [展開 (Deploy) ] の順に選択します。

# 著作権

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗黙のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザーインターフェイスにハードコードされている言語、RFP のドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

シスコおよびシスコのロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、<http://www.cisco.com/go/trademarks> を参照してください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。

© 2017-2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.